

ScaleCraft 製“MODEL-K”インプレッション  
キャップとハットのいいとこ取り  
ーキャップの軽快さはそのままにハット以上の日除け効果

史上最も暑かったといわれる 2025 年夏、早朝のジョギングでほぼ毎日使用し、また溪流釣りや登山でも使用してきたのでここに報告する。今回妻が使わせていただいたのがブリムとフラップの短い TYPE-S で、私のはブリムとフラップを+2cm してもらった MODEL-K。



正直どちらがいいかと問われると悩ましい。軽快さでは間違いなく TYPE-S だし、より高い日除け効果を望むならやはり MODEL-K だろう。私は欲張ってロングにしてもらったが、今、心は TYPE-S に傾きかけている部分もある。見た目以上に十分な日除け効果があるからだ。こちらは妻がすっかり気に入ってしまい、買物からランニングや登山まで今年の夏は常に身につけていた。

### ★日除け効果

フロントのブリムもネックのフラップも絶妙な角度で取り付けられているため、横から差し込む朝日や稜線での日除けもばっちり。さらに完璧な日除けを望むのであればネックゲイターが必要だが、暑苦しくなってしまう、この帽子の良さを損ねるので推奨はしない。また、釣りにおいては、炎天下での日差しから守ってくれるだけでなく、偏光グラス使用時に、サイドから差し込む日差しを防いでくれるため、非常に水中が見やすい。

以上のとおり、日常使いからランニング、釣り、登山などあらゆるアウトドア・アクティビティに使えるオールラウンダーだ。



## ★風抜け

頭頂部やサイドのメッシュ部分も「シルフシステム」のおかげでランニングでは明らかな涼しさを感じる。うなじ部分のフラップは本来日除けを目的としたものだが、副次的なベンチュリー効果で、目の下あたりから頬、うなじにかけての風抜けがすばらしく、走るととても涼しく感じる。

そして、この帽子のベンチレーション効果が最も発揮されるのは風の吹く山頂や稜線だ。丸一日登山して身体は汗だくになって、下山時に頭がサラッとしていたのには驚かされた。もちろん無風時の樹林帯歩きなどは暑い、クラッシュャブルなので折りたたんでザックのポケットに仕舞える点も大きなメリットだ。

見た目的には「なにもついてない普通のメッシュキャップのほうが涼しいんじゃない？」と思われるかも知れないが、被り比べた上で言っているのでこれは間違いない。真夏の炎天下で上半身裸で走ると、適度にルーズな機能性ベースレイヤーを身に着けて走るのは、後者の方が涼しい。それと同じことだ。ただし無風状態での徒歩ではベンチュリー効果は感じられないので期待しないこと。



## ★軽快さ

これは実重量ではなく、体感的な軽快さのことを指す。ハットはずっしりとしていて重苦しい「感じ」がするモデルが多く、ランニング時に被ろうと思う人は少ないだろう。MODEL-K ももちろんランニングに使えるが、特に TYPE-S はランニングキャップとしても非常に優れており、重苦しい感じはまったくしない。それに加えて上で書いたように、普通のキャップより涼しい。被っていてもハットにありがちな重苦しさがまったくない。



## ★重量

こちらは実重量。アウトドア用のキャップはいろいろと使ってきたが、Scale Craft 製は軽量性と耐久性のバランスがすばらしい。実重量では MODEL-K ロングは 61g。有名アウトドアメーカーやいわゆるウルトラライト系のフラップ付きキャップと比べてもまったく遜色ない軽さ。

軽量なモデルは耐久性を犠牲にしているケースが多いが、Scale Craft 製はガンガン洗っても全然大丈夫。有名アウトドアメーカーでもブリムにハード芯を使っているものなどは半年も使うと被せてある布が破けてきてしまうことがあった。また軽量性を重視したモデルでソフトなブリムを売りにしているモデルもがあるが、これは強風時にめくれ上がってしまいまったく使い物にならなかった。今回台風前の稜線で試した結果 Scale Craft 製はまったく問題なし。



## ★クラッシュャブルでウォッシュャブル

上でも書いたが、丸めてバックパックのサイドポケットなどに突っ込めるといのは登山者にとって非常にありがたい。ハード芯を使った帽子だとこれができない。ザックのストラップなどにぶら下げて歩くのはヤブで引っかかるし、持ち歩くのに意外と邪魔になる。また今回試させていただいたモデルは、8月中1日おきに洗濯したが全くヘタっていない。上でも書いたがハード芯の帽子だとなかなかこうはいかない。



## ★細部の丁寧な仕事

いろいろとスペックや機能を中心に書いてきたが、実はこの帽子の本当の価値は細部にある。縫製が非常に丁寧で、手間を惜しまず作られていることが私のような素人にもわかるのだ。たとえばブリムのステッチひとつ見ても、量産品とは格段に手間がかかっていることが見て取れる。近年の有名アウトドアメーカーは、スペック的な軽量性を追求するがあまり熱圧着技術を駆使したり、ポリウレタンを使用したモデルなども多数販売しているが、これらが耐久性に劣ることはいうまでもない。



## ★総合力で優れたアウトドア帽子

これをキャップと呼ぶべきかハットと呼ぶべきかは制作者の田島氏が決めることではあるが、日常使いからランニング、登山、釣りなどのアウトドアスポーツには総合的に優れた機能を発揮してくれるオールラウンドにすばらしい帽子である。買物からガチ山屋さんの長期縦走などにもまちがいないとお勧めできる帽子です。



## ★スケールクラフトのこと

私は今年春にキャップを作っていたただけの単なるメルカリの客なのですが、この度縁あってこのような文章を書かせていただきました。何度もメールでやり取りをさせていただいたうえで田島氏の印象ですが、社長でありながら、「商売人」や「経営者」というよりむしろ「職人さん」という肩書きのぴったり来る方だと勝手に想像しております。何でもかんでも合理化されて、日本のものづくりを支えてきた田島氏のような誇りを持った職人は絶滅危惧種になりつつありますが、「職人」とはやや違和感を感じるメルカリというプラットフォームを介して、このような技術を持つ方と出会え、素晴らしい帽子に出会えたこと心より感謝しております。